

城端地域の学校統合検討案説明会でのご質問、ご意見について

(1) 検討の考え方・進め方について

いただいたご質問	市教育委員会の回答
今回の学校再編と、南砺市公共施設再編計画の間に 関係はあるか。	第2次南砺市公共施設再編計画では、公共施設の保有面積を半減することを目標にしていますが、学校に関しては、「南砺市立学校のあり方検討委員会の提言等により方向性を定める」こととしており、別建てで保有方針を掲げています。 したがって、学校数を必ず半分にすることを前提に統合を検討しているものではありません。
地域のことを大事に思っている子どもが多いので、 子どもたちにも学校統合のことを話してもらえらる場があれば良いと思う。	子どもたちと話す機会に関しては、小学校・中学校に設けていただき、そこで出た意見や考えを、検討委員会で校長先生から報告いただく予定です。
統合の方針が固まる時期は、いつ頃になるか。	予定では、令和7年度中に統合の方向性を確定させることとしています。ただし、議論の時間が更に必要だということであれば、必ずしも、令和7年度中に結論を出さなくてはならないということではありません。 なお、統合の方向性の確定から、実際の統合までは、準備期間を考慮すると、最低でも2年間は必要です。
今後10年～15年後には、子どもの出生数をもっと減り、南砺市全体で学校統合を考えないといけない状況になると考える。 今回の学校統合の検討が意味をなさなかったことにならないよう、今後20年先ぐらいまでを見据えながら、学校統合を考えていただきたい。	今回の学校のあり方の検討は、今後10年～15年先の期間において、今の子どもたちにとって一番良い環境を整えるということを主眼に置いています。そして、今回決めた方向性を、3年～5年後に再考することはないという認識です。 なお、「南砺市立学校のあり方検討委員会」は5年ごとに開催することになっているので、その時々状況に応じ、学校のあり方の方向性を、その都度協議していくこととなります。
福光地域の学校統合の検討は、どこまで進んでいるのか。	(令和7年7月12日時点の回答です。) 中学校に関しては、福光中学校と吉江中学校を統合して1校にするという方針でまとまっています。 現在は、小学校の再編パターンを協議しています。
学校のあり方に関し、学校を統合したケースと義務教育学校にしたケースについて、各団体の教育委員会で検証されていると思うので、そのような資料があれば頂けないか。	メリット・デメリットに関しては、個人や地域によって捉え方が異なります。義務教育学校に関しては、一般的に言われるメリット・デメリットをお示ししているところです。

いただいたご質問	市教育委員会の回答
他地域の中学校と統合するということになれば、単に人数だけで統合先の中学校を決めるとなると、支障が出るのではないかと。 教育をする上では、設備が重要であり、中学校のなかで運動設備が一番整っているのは城端中学校だと思う。	南砺市立学校のあり方に関する提言書では、統合先の中学校も地域ごとに決めることにしており、現在も地域ごとで協議の上、統合先の中学校を決めていただくこととなります。
奨学金の返還支援など、南砺市が人口対策の施策を拡充してから間もないので、それらの施策の成果が検証できてから、学校統合の検討をすべきではないか。	今後、中学校で単級が生ずる見通しであることため、「協議開始時期は、中学校に単級が断続的に生じる5年前を目途」という提言内容に沿い、令和7年2月から検討を開始しています。 また、統合が決まったとしても、実際に統合できるのは、少なくとも統合決定から最低でも2年にかかるため、現時点で学校のあり方の検討を進める必要があります。
PLAY EARTH PARK が開園し、城端地域の人口が増えたら、学校統合の話はなくなるのか。	複数学級が維持できることが確認できれば、学校のあり方の検討を急ぐ必要はありません。ただし、現時点では、令和11年には中学校に単級が生じる見通しなので、検討を進めています。
統合の決定は、行政主導で行われるのか。	南砺市では、地域で検討委員会を組織し、地域で学校のあり方を決めていただくことになっています。 行政は、検討委員会で決めたことについてしっかりと取り組んでいきますが、地域で話がまとまらない限り、行政で一方的に統合の決定をすることはありません。
検討委員会の進め方について、統合パターンを決めてから各々の課題解決に向けた協議を進めていくとあるが、本来は逆ではないか。検討を進める前に課題を洗い出してほしい。 最初に各統合パターンの課題やその解決策を提示されないと、判断材料がなく、感情的な意見しか出てこない。	統合の検討過程で出てくる課題は、どちらの統合パターンであっても対応し、解決できると考えているので、統合パターンの検討を最初に行っています。 メリット・デメリットに関しては、保護者によっても感じ方がかなり異なるので、今後の検討委員会でも提示していくので、みなさんでも議論いただければと思います。
ほかの地域に城端に来るように声かけをしているのか、それとも今後声かけをされる予定はあるのか。	今回の学校のあり方の検討では、教育委員会が学校を特定の地域に誘導することは行っていないため、教育委員会ですのような声掛けはしていません。

(2) 学校生活（通学を含む）について

いただいたご質問	市教育委員会の回答
パターン1の「他地域の中学校と統合」だと、スクールバスが出るかなど、登下校の問題が出る。 また、スクールバスを出すにしても、運転手の高齢化や運転手不足といった問題が出てくると考える。	現段階では、通学距離が一定距離を超える場合は、スクールバスでの対応を想定しています。場合によっては、市営バスや城端線の利用も検討範囲には含めますが、原則としてスクールバスでの対応を考えています。 運転手不足に関しては、運行业者と協議を進めるなかで、十分な対応が取れるように検討を進めていきます。
子どもを育てた経験からすると、スクールバスだけでは当てにならない。実際に送迎を経験してみても初めて分かることなので、十分に検討いただきたい。	他地域の中学校と統合というパターンとなった場合は、送迎面を十分に考慮し、できる限りの体制を整えられるように努めます。
地域移行を開始する部活動もあるが、通う学校と部活動をする学校が違う場合、親の送迎の負担が大きくなる。	送迎の負担を減らしつつ、子どもたちが速やかに移動できるようにすることに関しては、庁内でも課題として認識しており、交通担当部署が中心となって検討を進めています。
パターン2の義務教育学校を設置することとなった場合、耐震面を含め、施設的に問題ないか。	義務教育学校にする場合は、使用する校舎に必要な改修を行います。
中学校が単級になったときに、どれだけの教員が配置されるのか。単級になった状態で、子どもの学びが充実するのか。	単級になった場合、非常勤講師の派遣により、教員を補います。そのため、授業そのものは問題なく実施できます。ただし、非常勤講師は常駐ではありません。
仮に義務教育学校となった場合、前期課程（小学校6年間）が終わったら、他地域の中学校に行くということは可能か。	特認校制度を利用すれば、前期課程（小学校6年間）を修了した段階で、別の中学校に進学することは可能です。
他地域の中学校と統合になったとき、例えば、少人数の方が良いという理由で、中学から南砺つばき学舎に進学することもできるのか。	特認校制度を活用すれば、中学校に入学する前に、進学する中学校を決めることができます。
小学校又は中学校の途中で、義務教育学校に切り替わった場合、子どもたちにとってデメリットはあるか。	今後の協議の中で考えるデメリットへの対策については、教育委員会で事前の準備やサポートをしていきます。 なお、義務教育学校に必要な改修は、夏休みなどの長期休みに行うなど、学校生活に影響が出ないよう、十分に考慮します。

(3) 義務教育学校について

いただいたご質問	市教育委員会の回答
先に義務教育学校となっている井口地域・利賀地域の状況や、それを踏まえた義務教育学校のメリット・デメリットを聞きたい。	メリット・デメリットに関しては、個人や地域によって捉え方が異なるので、義務教育学校に関しては、一般的に言われるメリット・デメリットをお示ししています。 ただし、今後の検討委員会などで、具体的な要望があれば、調査等を行い、資料にまとめてお示しします。
義務教育学校になった場合、教頭の配置はどうなるのか。	義務教育学校の場合、教頭は前期課程・後期課程にそれぞれ1人ずつ、計2人が配置されます。 なお、養護教諭も同様に、2人配置されます。
義務教育学校で育った児童生徒が、どのような思いで義務教育学校を卒業しているのか、卒業後どのように育っているのかを知りたい。 親としては、統合パターンの違いで、子どもの育ち方がどのように変化するのが気になる。	規模の大きい小・中学校と義務教育学校の両方を経験する子どもが、南砺市にはほとんどいないため、お尋ねのことを資料としてお出しするのは難しいです。 教育委員会としては、どちらの統合パターンであっても、子どもたちにより良い教育環境を整えたいという考えです。
義務教育学校のメリットに、「学力の向上が期待される」とあるが、実際にどの程度学力が向上し、効果が期待できるのか。 中学生や小学校高学年にアンケートを取っていただき、その結果を資料に載せていただきたい。	どれくらい学力が向上したかというのは、明確な指標がないため、回答できません。 ただし、南砺つばき学舎では英語教育に力を入れ、小学校低学年から英語の授業を設け、低学年から英検に合格する児童が出ており、そのことは学力向上の一つだと考えます。 アンケートに関しては、学校で児童生徒の意見を聞くことになっているので、学校と相談しながら、意見を聞く機会を設けたいと考えています。

【主なご意見】

（パターン１：城端中学校を他地域の中学校と統合に対するご意見）

- ・ 他地域との中学校と統合で考えていた。送迎については課題であり、城端の文化や伝統を伝えたい大人の気持ちも分かる。しかし、子どもにとってどんな環境が望ましいかを考えると、固定したメンバーで９年間いるよりも、多くの人や色々な先生と触れ合うことで、物事の考え方を広げ、交友関係を築くことを、中学校の多感な時期に体験してほしい。少人数のメリットも分かるが、人と関わらなければ分からない経験もたくさんある。
- ・ 今、我々が協議していることが未来の子どもたちにつながるのであれば、子ども自身がどんな中学校生活を送れるかということや、どんな環境を子どもたちに残したいかを念頭に置く必要があると思う。そのために、まず子どもたちに、「どのような環境で過ごせたら楽しいか？」ということを知ってもらいたい。「友だちをたくさん作りたい」「このような学校生活を送りたい」といった子どもたち自身の声を聴き、その希望する環境を叶えてあげれば、子どもたちにとってより良い経験ができると思う。
- ・ 城端の文化の継承もあるが、南砺市全体で城端の文化を知ってもらえば、より広がりを持てるのではないかな。
- ・ 中学校に入学したら部活動を選ぶが、後輩が継続的に入部し、部活動をずっと続けられるような環境が大事だと実感している。そのためにも、ある程度の人数がまとまったほうが良い。
- ・ 地域の伝統はとても大事だが、それを考えて作っていくのが大人の責任だと思うので、みなさんで力を合わせて何ができるかを考えていければ。

（パターン２：城端地域に義務教育学校を設置に対するご意見）

- ・ ふるさと教育を中学校に入っても続けるのであれば、義務教育学校のほうがよいのではないかな。９年間で、城端を愛する心を子どもたちに育んでももらいたい。
- ・ 南砺市でも、城端地域には城端地域の特色があり、城端ならではの祭りの継承や、地域活性化を考えると、義務教育学校のほうがよいのではないかな。

（その他）

- ・ もし、統廃合になったときには、学校の名前から城端などといった地名は無くしてほしい。地名が付くと、地元意識の強さが出てしまい、ちゃんとした目線で物事を考えられなくなってしまう。